

教育委員会協議会議題

平成19年3月23日

1 報告事項

(1) 市議会3月定例会の概要について(資料1 教育政策課)

代表質問（教育委員会関係質問事項）

質問 順	会派 名	議員 名	質 問 事 項	所 管 課	NO	頁
1	粹誠会	守屋	1 1 文化創造都市に関連して (2) 生涯学習センターについて (3) 報徳思想の普及・啓発について	生涯学習政策課	1・2	1
			(4) おだわらっ子の約束と大人社会との関連について	教育政策課	3～5	
2	社民・ネット・市民連合	谷神	1 平成19年度施政方針に関連して (2) 中心市街地活性化の推進について ア 城跡の整備の今後について	文化財課	6	1・2
			3 市民が共に支え合い住み慣れた地域や家庭について (3) 子育て環境の整備について イ 放課後児童クラブについて	青少年課	7・8	
			5 文化活動や学習を通して、誰もが個性や才能発揮することのできるまちづくり (1) 図書館について ア 図書館の現状について イ 市立図書館の老朽化と新館建設の見通しについて	図書館	9・10	
			(2) 学校教育について ア 学校教育ルネッサンス事業計画について イ おだわらっ子の約束について	教育政策課	11・12	
3	市民クラブ	中島	5 文化創造都市に関して (1) 童謡を通じた安らぎのあるまちづくり等について	生涯学習政策課	13・14	2・3
			(2) ツーデーマーチを小田原の誇り得る事業とするために	スポーツ課	15～19	
4	公明党	小松	4 教育問題について (1) 言語の通級による指導等について	学校教育課	20・21	3・4
			(2) 学校施設等の整備について	教育政策課	22・23	
			(3) いじめ対策等について	学校教育課	24・25	
5	日本共産党	原田	4 子どもたちの豊かな成長を保障する教育と子育て支援について (2) 学童保育所の拡充について (4) 児童館の開設について (6) 学校教育の充実について	青少年課	26～28	4～6
			6 防災、環境保護につとめ、安全で住みよい「まちづくり」を (3) 学校の校舎、屋内運動場などの耐震診断、耐震補強工事はどこまで進めるのか	教育政策課 学校教育課 学校保健課	29～36	
				教育政策課	37	
6	駿世会	井原	4 文化創造都市について (1) 史跡小田原城跡整備事業について	文化財課	38～41	6・7
			(2) 健やかに伸びる力を育てる教育環境について	教育政策課 学校教育課	42～44	
7	進友会	三廻部	7 本市の教育施策について (1) 児童・生徒のいじめ、自殺、不登校の対策について	学校教育課	45・46	7・8
			(2) 教職員の資質向上について	教育研究所	47・48	
			(3) 学校施設について	教育政策課	49・50	

代表質問

議員	NO	答弁	質問要旨	答弁要旨
守屋	1	市長	相談窓口の人的な配置はどのように考えているのか。	<p>多様化する市民の学習ニーズに応えていくためには、さまざまな学習情報を収集し提供することが重要となっている。</p> <p>また、学習意欲を持った方がどのように学習活動を進めたらよいか、地域でどのような学習講座を開設したらよいかなどの学習相談機能の充実が求められている。</p> <p>生涯学習センターの開設にあたっては、この学習相談と学習情報の収集・提供の充実を図っていくことが最も重要だと考えているので、生涯学習センター担当を設置するとともに、教育や生涯学習の経験を持った嘱託員を増員する予定である。</p>
守屋	2	市長	報徳サミット小田原市大会の宣言文では、二宮尊徳翁のNHK大河ドラマ化への働きかけに努力することとしているが、市長は、どのような取組みをしているのか。また、今後はどのように展開していくつもりか、お伺いしたい。	<p>報徳サミット小田原市大会の宣言を受けて、尊徳ゆかりの市町村等で構成する「全国報徳研究市町村協議会」の中に、私を委員長として「二宮尊徳NHK大河ドラマ化推進委員会」を組織して要望していくこととなった。</p> <p>過日、NHK横浜放送局には要望したところであるが、今後、できるだけ早い時期に、NHK会長に対して要望していきたい。</p> <p>大河ドラマ化について、この組織を通して実現できるよう努力したい。</p>
守屋	3	教育長	おだわらっ子の約束では、子どもたちに何を訴えようとしているのか。	<p>このおだわらっ子の約束は、子どもたちに守ってもらいたいルールや、身につけてほしいことなどを「ことば」にして、家庭、学校、地域が一体となって子どもの健全育成を進めていただくことを目的としている。</p> <p>基本理念を、「しっかりした躰や生活規範を身につけた子どもは、幸せになれる。」と定め、三つの目標を掲げている。一つ目が「『良いことは良い、悪いことは悪い』と自ら判断し、行動できる力を養うこと」、二つ目が「他者とコミュニケーションを図ることができる力を養うこと」、三つ目が「社会の一員として、積極的に社会に貢献できる力を養うこと」である。</p> <p>小田原の子どもたちには、このおだわらっ子の約束を守ることによって、今申し上げた三つの力を身につけ、個人として自律するとともに、立派な社会人として成長し、一人ひとりが幸せになってほしいと願うものである。</p>
守屋	4	教育長	おだわらっ子の約束は、どのように普及させていく考えか。	<p>このおだわらっ子の約束は作るだけでなく、子どもたちに知ってもらい、実践してもらうことが最も大切なことである。</p> <p>学校関係者や地域住民、保護者、生徒の代表者、公募市民等で構成され、このおだわらっ子の約束を提言していただいた「おだわらっ子の約束策定委員会」からは、市立小中学校への看板の設置や、シンボルマークを作成しての普及啓発、推進委員会等による事業展開のチェックなど、普及・活用する方法についても、様々な提言をいただいている。</p> <p>教育委員会としては、この提言をできるだけ尊重する形で、周知活用の実践活動につなげていきたいと考えている。</p>
守屋	5	教育長	子どもよりも、親や大人の再教育の方が必要ではないか。	<p>近年は大人たちによる心無い行動が目にとまることもあり、子どもを教育すべき大人たちにも範を示してもらいたいと感ずることがある。</p> <p>このおだわらっ子の約束を策定する作業の中でも、幾度か、同様のご意見をいただいたところである。</p> <p>あらためて、この約束を読み返すと、私自身、自分は果たしてすべて守れているか、身が引き締まる思いがする。</p> <p>親や大人たちが、この約束を子どもたちに語り継いでいくときに、私自身がそうであるように、きっと大人たちも振り返るきっかけになるであろうと期待しているところである。</p> <p>そして、この約束を身につけた子どもが成長して、親になったとき、次は自分の子どもたちに伝えていく、そのような運動に広がって、10年後、20年後の明るい未来の礎になってほしいと願っているところである。</p>

谷神	6	市長	小田原城の今後の整備はどのような計画なのか。	小田原城の整備については、大手筋にあたる馬出門枳形及び馬屋曲輪の整備を実施している。 その後の整備は、「史跡小田原城跡本丸・二の丸整備基本構想」の中で短期計画に位置付けている「大手筋及び本丸の整備を重点的に行うとともに、二の丸主部及び御用米曲輪等の整備」を実施していくことになる。 具体的には、そのときどきの財政状況等も考慮しながら、国・県や史跡小田原城跡調査・整備委員会など関係機関と調整・検討を行い、市の総合計画に位置付けて実施していきたいと考えている。
谷神	7	市長	放課後児童クラブについて「開設時間の延長や指導員の資質の向上など、運営面での充実を図っていく」とあるが、具体的にはどの程度の時間延長を考えているのか。	開設時間の延長については、平成 17 年度及び平成 18 年度に 4 クラブずつ試行的に実施した。 また、保護者アンケートの結果では、5 割のかたが延長を希望している。 このようなことから、平成 19 年 4 月から閉所時間を 30 分延長し、午後 6 時 30 分までとすることを考えている。
谷神	8	市長	指導員の資質の問題として、市民からどのような要望があるのか、また、どういった点について向上させていくことが必要と考えているのか。	指導員の資質に関する要望としては、主に、教員免許や保育士等の資格保持者を雇用してほしいという内容がある。 しかしながら、指導員の雇用については、応募者も少なく人材確保が困難な状況である。 現在雇用している指導員の中で、教員免許や保育士等約 3 分の 1 のかたが有資格者である。 今後は、これら有資格者も含めて、全指導員に対して面談などを行なうとともに、新たな執務マニュアルを基に研修会を行い、児童に対する指導力等の向上に努めてまいりたいと考えている。
谷神	9	市長	図書館年間利用者（貸出者）の利用状況の停滞として、蔵書が新しくないことや本離れが原因ではないかと思うが、改善を図ることを検討しているか。	図書館では、従前の読み聞かせボランティア養成講座の開催に加え、平成 18 年度には、中・高校生のためのコーナーを新設し、比較的利用の少ないヤング年代の利便性の向上を図った。 さらに、19 年度には、子どもの読書活動推進講演会を新規に開催するとともに、インターネット予約システムや図書館ネットワークの拡充により、利便性の向上等が図られることから、利用者の停滞状況が改善されると考えている。
谷神	10	市長	新たに作るべき市立図書館のあり方について、検討委員会の設置を図るべき段階ではないかと考えるが、新館建設の見通しについて伺いたい。	市立図書館は、国指定史跡小田原城跡内に所在しており、「史跡小田原城跡本丸・二の丸整備基本構想」の長期計画において、史跡外に移転すべき施設に位置付けられている。 市立図書館の問題については、財政状況、市民ニーズや生涯学習施設全体の機能の再編等、これらを総合的に勘案し、検討してまいりたいと考えているところである。 このような状況にあるため、移転の時期が明確になった段階で検討委員会の設置も視野に入れてまいりたいと考えている。
谷神	11	教育長	学校教育ルネッサンスは新規事業が多く、教員の忙化を招く要因にならないか。	学校教育ルネッサンスは、昨年 9 月に実施した「小中学生の教育に関する市民満足度・重要度調査」の結果を反映した事業計画となっている。 ご指摘のとおり、新規事業の多い内容となっているが、集中と選択により事業の見直しをしており、大きく負担が増すことにはならないと考えている。教員の研修事業等については、市役所ではなく、学校現場において実施できるよう計画しており、また、他の新規事業についても、学校だけではなく、家庭や地域との協力・連携のもと進めていくことで、教員の負担は軽減できるものと考えている。 いずれにしても、教員の負担を軽減し、子どもと向き合う時間を確保することは、教育現場においては大変重要なことと捉えているので、十分、配慮して進めてまいりたい。

谷神	12	教育長	おだわらっ子の約束は、普及させ、実践していくために、どのような取組を進めていく考えか。	<p>粹誠会 27 番守屋議員の代表質問にもお答えしたが、学校関係者や地域住民、保護者、生徒の代表者、公募市民等で構成された「おだわらっ子の約束策定委員会」からは、市立小中学校への看板の設置や、シンボルマークによる普及啓発のほか、配布用のカードの作成、PTA や青少年団体の活動での取組みなど様々な提言をいただいている。</p> <p>教育委員会としては、この提言をできるだけ尊重する形で、今後、関係団体で構成する推進委員会等を設置して協議しながら、学校、家庭、地域が連携して進めてまいりたい。そして、大人たちが同じことを語りかけ、子どもたちは常に心掛けることで、小田原の子どもたちの心に残してあげたいと考えている。</p>
中島	13	市長	子どもたちへの教育的視点での取組について、童謡の活用をどのように考えているのか。	<p>童謡は、子どもたちの感性や想像力を育むとともに、家庭や地域で世代を超えた交流を生み出すことができるものである。</p> <p>そこで平成 19 年度は、小田原ゆかりの曲を集めた歌集「おだわらっこ心のハーモニー」を昨年に引き続き、小学校の新 1 年生に配布するとともに、本年の「全国童謡フェスティバル～白秋 IN 小田原」で誕生した新作童謡の CD 等を、市内の幼稚園、保育所及び小中学校に配布して、教育現場での活用を図るほか、市内音楽団体等の協力もお願いし、家庭や地域での童謡の普及に努める予定である。</p>
中島	14	市長	文化的資産の活用とまちおこしという視点で、どのような取組を考えているのか。	<p>本市は、北原白秋が多くの童謡作品を創作した地であり、また「めだかの学校」や「おさるのかごや」等、ゆかりの童謡も数多くある。</p> <p>市では、これまで、童謡フェスティバルの開催のほか、白秋童謡館や、荻窪用水における「めだかの学校」の整備等を行い、「童謡のまち小田原」を PR し、市外からも多数の方が訪れている。</p> <p>平成 19 年度には、市職員による研究会を設け、市や民間において、これまでに行われてきた事業を研究しつつ、「童謡のまち小田原」を全国に PR していく方策を探っていく予定である。</p>
中島	15	市長	8 回を重ねた城下町おだわらツアーデーマーチらしい特徴についてどう感じているか伺いたい。	<p>城下町おだわらツアーデーマーチは、全国でもまれな 1 市 3 町の広域連携により運営されている。</p> <p>コースについても、箱根の鎌倉古道や小田原城総構など、関係市町で連携を取りながら、地域の特性を生かした設定をすることで、西さがみの新たな魅力を再発見できると、多くの参加者から好評を博しており、今では、全国でも屈指のツアーデーマーチに成長したと思っている。</p>
中島	16	市長	第 4 回大会から西さがみ連邦共和国連携事業となったが、箱根、真鶴、湯河原の 3 町の受け入れ体制について伺いたい。	<p>城下町おだわらツアーデーマーチは、西さがみ連邦共和国の建国を機に、第 4 回大会から箱根コースと湯河原真鶴コースを加え、1 市 3 町による連携事業として大会規模が拡大した。</p> <p>準備段階からコースの見直しやスタッフの配置など円滑な大会運営に向けて、1 市 3 町が連携を密にし、各コースで地域住民、体育関係団体などが自発的に大会スタッフとして運営にあたっている。</p>
中島	17	市長	ボランティアで参加している市民スタッフの協力意識について伺いたい。	<p>第 8 回大会では、大会運営や事前のコース清掃などに、多くの市民ボランティアや、新たに小中学生が参加している。</p> <p>コース途中の各休憩所には、毎回、多くのウォーカーが給水などで立ち寄るが、地元の方々が笑顔で参加者のもてなしを引き受けてくれている。</p> <p>また、大会を通じ、市民ボランティア等から貴重なご意見を寄せられることもあり、あらためて城下町おだわらツアーデーマーチが多くの方々に支えられていることに対して深く感謝している。</p>
中島	18	市長	今回から障害者が参加できる体制が整ったようだが、問題点などについて伺いたい。	<p>城下町おだわらツアーデーマーチは、今回、6 km ファミリーコースに障害者対応の仮設トイレを設置したことや、障害者に随伴する介護スタッフを配置したことで、これまで問題となっていた点が解消されたため、参加された視覚障害者の方や車椅子の方がそれぞれのコースを完歩することができた。</p> <p>今後も、ノーマライゼーションの視点に立ち、多くのコースに障害者が安心して参加できるような体制づくりに努力してまいりたい。</p>

中島	19	市長	実施にかかる経費の財源及び今後について伺いたい。	<p>ツデーマーチにかかる経費は、主に1市3町からの負担金、民間企業等からの協賛金、参加料で賄われている。</p> <p>今後は、さらなる広域連携をも視野に入れながら、民間企業からの協賛の範囲を広げ、障害者は勿論、小・中学生などにも気軽に参加してもらい、自然や歴史・文化を肌で感じてもらえるような魅力ある城下町おだわらツデーマーチにしたい。</p>
小松	20	教育長	ここ3年間の「ことばの教室」への通級者数と通級希望者の状況を伺いたい。	<p>ことばの教室は、新玉小学校と下府中小学校に設置されており、保護者から入級希望が出されると、教育相談、入級審査を経て入級が決定する。</p> <p>昨年度は、新玉小学校で34名、下府中小学校で31名の児童が、今年度は、それぞれ33名の児童が、通級による指導を受けている。</p> <p>来年度は、現時点では、新玉小学校31名、下府中小学校33名が通級する予定である。</p> <p>なお、ここ3年間で、ことばの教室の入級を申請したのに入級ができないという児童はいない。</p>
小松	21	教育長	今後、「ことばの教室」への通級希望者が増えた場合の対応を伺いたい。	<p>現在、新玉小学校と下府中小学校で合わせて6名の教員が「ことばの教室」での指導に当たっている。</p> <p>今後通級希望者が増えた場合でも、それぞれの「ことばの教室」に40名、あわせて80名程度までは、現在の体制で十分対応ができると考えている。</p>
小松	22	市長	学校トイレについて、洋式化をはじめとした改修を進めるべきではないか。	<p>学校トイレを大規模に改造する場合には、国庫補助を活用し、順次、便器の洋式化やバリアフリー化など、大規模な改修工事を実施しており、平成19年度においては、千代小学校及び矢作小学校の改修工事を予定している。</p> <p>全ての小中学校に洋式便器は設置済みであるが、洋式便器の占める割合は、小学校で21.5パーセント、中学校で17.2パーセントとなっている。</p> <p>なお、ご指摘をいただいた早川小学校の運動場トイレについては、薄暗さを解消するため、現在照明器具の増設工事を施工しているところである。</p> <p>今後も、学校等からの施設改善や整備の要望を踏まえた上、便器の洋式化を含めたトイレ整備を計画的・効率的に推進してまいりたい。</p>
小松	23	市長	職員室等へのエアコン設置を進めるべきではないか。	<p>学校施設のエアコン設置については、学校からの要望に基づき、日当たりや風通し等の立地条件を勘案した上で、順次整備を行っており、平成17年度には「市民が選ぶ予算の使い道」制度を活用して、全小中学校の保健室にエアコンを設置したところである。</p> <p>また、職員室へのエアコン設置についても、学校5日制や2学期制の導入に伴い、教職員の出勤増に対応するため、順次整備を進めており、平成18年度は、城北中学校の管理諸室にエアコンを設置したところである。</p> <p>平成19年度は、大窪小学校と下曾我小学校のパソコン教室及び職員室、矢作小学校のパソコン教室に設置するとともに、現在未設置の中学校10校の管理諸室に、リース契約によりエアコンを設置する予定である。</p> <p>今後も児童生徒の安全確保や学校環境改善を最優先に考え、よりよい学校施設づくりに努めてまいりたい。</p>
小松	24	教育長	小田原市内の小・中学校における昨年度と今年度のいじめの件数について伺いたい。	<p>文部科学省が毎年、年度末に実施している「児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における小田原市内のいじめの件数は、平成17年度は、小・中学校合わせて15件となっている。</p> <p>今年度については、この調査はまだ行われていないが、11月に小田原市で「いじめや悩みについてアンケートや教育相談で明らかになった件数」として独自調査を実施したところ、約570件の報告があった。これは、文部科学省のいじめの基準にこだわらずに調査した結果の件数であり、幅広い内容のものを含んでおり、子どもたちの悩みを浮き彫りにした数として受け止めたいと考えている。</p>

小松	25	教育長	小田原市でこられた まに行ってきた的 いじめへの具体的 な対応について伺 いたい。	いじめへの対応については、10月に全国的ないじめによる自殺報道を受けて、各学校に対して「児童・生徒の状況の把握」「自他の生命を尊重する教育の推進」「教職員の言動についての再確認」をするよう通知するとともに、臨時校長会議で私から全校長に、いじめへの緊急の対策について指示をした。 さらに、私から全小・中学生と保護者にあててのメッセージを送り、「いじめなんでも相談室」を設置した。 各学校では、アンケートや教育相談などを実施し、児童・生徒のいじめや悩みなどの把握に努めるとともに、その解決に向けた対応をしているところである。 また、教育委員会では、「いじめ問題緊急対策会議」を開催し、緊急の提言として「いじめを防止するために」というリーフレットを作成した。このリーフレットについては、12月に、小・中学校の全保護者と教職員に配布をし、地域にも回覧をした。現在、この提言を受けて、具体策の実践化を進めているところである。
原田	26	市長	平成19年度の入 所申込み状況はど うか。また、手狭 になった学童保育 の部屋の拡張など の設置基準の策定 指導員の常勤複数 配置、労働条件の 改善など環境整備 を必要としないか。	新年度の申込み状況は、本年2月5日現在で1,136人あり、平成18年度当初の児童数より104人多い状況である。 また、手狭になった学童保育の部屋の拡張については、国の基準に基づき、学校側と協議し対応しているところである。 なお、指導員の常勤複数配置及び労働条件の改善など環境整備については、大勢の児童を安全に預かる業務のため、指導員の健康面に配慮し、1日の勤務時間が6時間以上にならないよう複数配置している。
原田	27	市長	放課後児童クラブ の対対象学年の拡 大に関する要望に ついては、どのよ うに考えているの か。	国が平成19年度から実施するよう指導している「放課後子どもプラン推進事業(案)」にうたわれている「放課後子ども教室」の実施について協議するため、教育委員会関係各課による検討委員会を立ち上げたところである。 放課後児童クラブの対象学年拡大についても、この検討委員会の中で併せて調査・研究してまいりたいと考えているので、ご理解いただきたい。
原田	28	市長	児童館については 、モデル地域を 設定し、開設して いくべきではない か。	児童館は、青少年の健全育成の上からも有効な施設であると認識しているが、現段階では、ご指摘の専用の児童館を開設することは、難しい状況にある。 しかしながら、児童館の開設については、関係団体とも協議しながら引き続き検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきたい。
原田	29	教育長	全国学力・学習 状況調査について 、公表の仕方によ っては各校の序 列化につながるこ とが懸念される 、市としての実 施を見合わせる べきかと思 うが、見解を伺 いたい。	全国学力・学習状況調査の目的は、各地域における児童生徒の学力・学習の状況を把握・分析することにより、各教育委員会は教育施策に、各学校は児童生徒の指導や学習の改善につなげることとされている。 また、結果の公表については、国の方針として、国全体、各都道府県、地域の規模別に調査結果を公表するものの、個々の市町村名や学校名を明らかにした公表は行わない等、学校間の序列化や過度な競争につながらないように配慮している。 小田原市においても、その目的を考えると調査の意味は大きいと考えており、全国学力・学習状況調査を実施する予定である。
原田	30	教育長	日の丸・君が代 の強制や愛国心通 知票の実施はす べきでないと思 うがどうか伺 いたい。	学校における国旗・国歌の指導については、学習指導要領において、児童生徒にその意義を理解させ、諸外国の国旗と国歌も同様に尊重する態度を育てると示されており、本市でも、これに基づいて指導している。 また、現在、市内の小・中学校において、愛国心を評価するようなことは行っていない。

原田	31	教育長	30人学級実現をさらに推進すべきと思うがどうか伺いたい。	<p>現在、小・中学校においては、基本的に40人学級編制であるが、本市では、小学校1年生において、35人以下の少人数学級編制を実施している。さらに、30人を超え35人以下の学級のある学校には、スタディ・サポート・スタッフを配置し、実質的な30人学級化を実現している。</p> <p>また、小学校2年生においても、35人を超える学級を持つ学校にもスタッフを配置している。</p> <p>市として、子ども一人ひとりに応じた教育のより一層の充実をめざし、これまで、スタディ・サポート・スタッフ事業の拡大を図り、大きな成果を上げており、平成19年度も同様に本事業を継続していく予定である。</p> <p>今後も、国や県に教員の増員などを要望し、子ども一人ひとりに応じたきめ細かな指導の充実を図っていきけるよう、研究を進めていきたいと考えている。</p>
原田	32	市長	早川小学校の校舎リニューアル工事の内容はどのような内容で実施していくのか。	<p>平成16、17年度において白山中学校をモデル校とした校舎リニューアルを実施したが、現在、学校や保護者、地域住民の意見を聞きながら、評価検証をしているところである。</p> <p>早川小学校においては、3月下旬には「早川小学校校舎リニューアル推進部会」を立ち上げ、白山中学校校舎リニューアルの検証結果を参考にしながら、推進部会や専門家の意見を反映し、外壁や多目的教室等の改修に着手する予定である。</p>
原田	33	市長	2学期制の導入や夏休みにおける普通や学習などから教室や管理諸室のエアコンの設置を進めていくべきか、考えるがどうか。	<p>学校施設のエアコン設置については、公明党20番小松議員の代表質問にもお答えしたが、パソコン教室や管理諸室等から順次、整備を進めており、平成17年度には「市民が選ぶ予算の使い道」制度を活用して、全小中学校の保健室にエアコンを設置し、平成18年度では城北中学校の管理諸室にエアコンを設置したところである。</p> <p>平成19年度は、大窪小学校と下曾我小学校のパソコン教室及び職員室、矢作小学校のパソコン教室に設置するとともに、現在未設置の中学校10校の管理諸室に、リース契約によりエアコンを設置する予定である。</p> <p>普通教室については、今後の検討課題とさせていただきたい。</p>
原田	34	市長	学校管理費を増やしたい、学校から要望に環境整備の充実を図るべきではないか。	<p>学校管理費については、子ども達の安全確保を最優先に考え、耐震補強や外壁改修工事を進めるとともに、便所改修や空調設備の整備など、教育環境の整備に努めている。</p> <p>また、平成19年度においては、早川小学校の校舎リニューアル工事に着手し、外壁等の改修や新しい教育理念に対応した教室改修を実施することとしている。</p> <p>工事請負費と工事関連の委託料をあわせた学校施設の整備費は、3億6千万円余と前年度より2.3パーセント増額となっている。</p> <p>今後も引き続き学校施設の整備、充実に努めてまいりたい。</p>
原田	35	教育長	調理業務を委託すると、学校栄養職員は指示を出さず、調理業務は調理師に任せ、学校栄養職員は育たないか。	<p>調理業務を委託化している学校の栄養職員は、月ごとの献立表を作成し、調理員が同席のもと現場責任者へ作業指示書を示し、月ごと・週ごと・日ごとに調理の指示を行っている。</p> <p>更に、学校栄養職員は業務開始前の打ち合わせにも立会うとともに、調理作業中も直接責任者に調理指導をし、味も直接確認するなど、現場の指導者として業務を遂行している。</p> <p>この他にも、学校栄養職員は現場責任者や会社の巡回指導者との連携に努めるほか、指示が徹底できるよう調理や衛生について、学校栄養士研究会やブロック献立研究会等で研鑽を積んでおり、調理業務を委託化しても、学校栄養職員の育成に問題は無いと考えている。</p>

原田	36	教育長	<p>食育は教育の一環であり、職員と教師が連携して取り組むことが大切だが、調理業務の委託をうまく取り分け、民間委託の必要はないか。</p>	<p>学校給食は、成長期の子どもたちの望ましい食習慣の育成や、食事のマナーを体得することなどを目的に行なわれている。また、学校給食は食育のための生きた教材となることから、教員や学校栄養職員が給食の時間や教科、行事等で、食に関する指導を行っている。</p> <p>本市においては、学校給食で地場産品を積極的に使用したり、学校栄養職員が特別非常勤講師制度を活用した食育授業を行うなど、食育の推進に努めている。</p> <p>民間委託業者の調理員も、小田原市教育委員会が実施している学校給食関係者研修会や、給食週間等の学校行事へ参加するほか、調理員の顔の見える給食を推進するなど、自校方式においても連携を図りながら食育推進の一翼を担っている。</p>
原田	37	市長	<p>学校施設の耐震化の状況はどのようになっているのか。</p>	<p>小中学校の校舎においては、耐震診断はすべて完了しており、中学校については耐震補強工事も完了している。</p> <p>耐震補強工事が未完了の小学校3校（桜井、酒匂、曾我）のうち2校が平成19年度中に完了する予定である。</p> <p>また、屋内運動場については、平成18年度で小中学校の耐震診断はすべて完了し、平成19年度に小学校3校（桜井、下府中、曾我）と中学校5校（白鷗、白山、城南、鴨宮、千代）において耐震補強設計及び耐震評価取得を実施する予定である。</p> <p>屋内運動場の耐震補強工事については耐震診断の結果、補強工事が必要な小学校13校、中学校11校のうち10校が完了している。</p> <p>今後も、早期に耐震補強工事が完了できるよう、順次、整備を進めてまいりたい。</p>
井原	38	市長	<p>八幡山古郭東曲輪の整備の内容について</p>	<p>八幡山古郭東曲輪は、平成19年度から平成21年度までの3箇年かけて史跡公園として整備を行う予定である。</p> <p>平成19・20年度には、人為的に形成された急斜面からの史跡の保護と隣接する住民の安全確保のため、斜面对策工事を行う。</p> <p>平成21年度には、上段まで登る園路を整備し、広場には、転落防止柵・史跡説明板や腰掛けなどを設置する。</p> <p>なお、整備にあたっては、景観的な面も配慮した緑化を行う。</p>
井原	39	市長	<p>八幡山古郭・総構全体をどのように整備していくのか。</p>	<p>平成19年度から、保存・管理計画策定の基礎となる測量を実施する予定である。</p> <p>その後、史跡の活用上重要であり、また将来にわたって保存すべき土地については、従来の保存管理計画をふまえながら、箇所を定めて優先度や土地所有者の意向なども勘案しながら、公有化を含め、保存管理の方策を定めていく。</p> <p>また、具体的には、重要な遺構が残る箇所を史跡公園等として整備し、回遊する散策ルートを設定するなど、八幡山古郭・総構の遺構を体感できるよう整備してまいりたい。</p>
井原	40	市長	<p>清閑亭土塁の国指定史跡並びに清閑亭の国登録有形文化財に指定・登録となった経緯について伺いたい。</p>	<p>清閑亭土塁は、昭和50年に小田原市文化財保護委員会から、国史跡に指定するように答申され、昭和51年には「史跡小田原城址保存管理計画策定報告書」において、「永久保存を促進し、史跡景観を積極的に整備する」箇所に位置付けられた経緯がある。</p> <p>そこで、これまで史跡の指定について所有者にお願いしてきたところであるが、同意が得られたので、追加指定の申請を行い、平成18年1月26日付けで史跡小田原城跡に追加指定された。</p> <p>また、建物については、歴史的文化的価値が認められることから、古き良き建造物を残してゆく制度である国の登録有形文化財制度に基づき登録申請を行い、平成17年7月12日付けで、その一部が国の登録有形文化財に登録されたものである。</p>

井原	41	市長	今後、清閑亭土壘並びに清閑亭をどのように活用していくのか。	当該地については、戦国時代の小田原城である「三の丸外郭」の南側の一角に位置し、土壘の遺構がよく残っている場所である。 国指定史跡として保存・活用することが大前提であり、小峯御鐘ノ台大堀切東堀をはじめとした八幡山古郭・総構を散策する回遊ルートの一地点として位置付けてまいりたい。 また、建物については、その価値が損なわれないよう、維持管理を行うとともに、史跡と一体となった保存・活用を図ってまいりたい。
井原	42	教育長	改正教育基本法や、教育再生会議の第1次報告について、教育委員会としては、どのように受け止めているか。	改正された教育基本法は、「人格の完成」や「個人の尊厳」などに、「公共の精神」を重んじ、「伝統と文化の尊重」などの理念が加えられたのが大きな変更点であった。また、教育再生会議の第1次報告は、学力の向上、規範意識の徹底、教員の質の向上、学校の再生、社会総がかりでの教育などが、その骨子のようである。 今般、教育委員会からは、「躰、道徳、心の教育」や「学力の向上」、「教員の資質向上」、「魅力ある学校づくり」の4本を柱とし、学校教育の再生と創造を目指す「小田原市学校教育ルネッサンス」に基づき、平成19年度予算を提案させていただいている。 期せずして、改正教育基本法や教育再生会議の第1次報告と、重なる部分が多い結果となった。 この学校教育ルネッサンスは、市民3,000人を対象に昨年実施した「小中学校の教育に関する市民満足度・重要度調査」の結果を反映したものであるが、国において進もうとしている所と大筋において沿った内容となっていると考えている。 引き続き、国の動向に注意するとともに、小田原市民の意向を捉えながら、小田原市の学校教育行政を進めてまいりたい。
井原	43	教育長	教科内容の削減に伴い、ゆとり教育がもたらした学力低下の問題があるが、本市では、学力向上について、どのような施策を講じていくのか伺いたい。	現在、学力低下を懸念する声が数多く聞かれるが、教育委員会では、「学力向上」を重要な課題ととらえ、学校教育ルネッサンスの大きな柱として位置づけ、積極的に取り組みたいと考えている。 これまでも、本市独自の学習実態調査を実施し、その結果を踏まえて作成した補助教材を各校で活用したり、2学期制の実施により授業時間数をさらに増やしたり、スタディ・サポート・スタッフの各校への配置やスクール・ボランティアの協力により、子ども一人ひとりにきめ細やかな指導を行うなど、学力向上対策に関わる事業を推進している。 今後、これらの学力対策事業の、一層の充実を図っていくとともに、学力向上には教員の授業力を高めることが必要不可欠であることから、教員の資質を高めるための「教職員アカデミー構想」に基づいた研修を実施し、児童・生徒の、さらなる学力向上に努めていく。
井原	44	教育長	全国学力・学習状況調査を実施及び結果への取り組みを、どのようにしていくか伺いたい。	全国学力・学習状況調査は、全国一斉に、各校において、授業時間の中で実施される。 実施後の調査結果について教育委員会は、国・県と本市の傾向を比較・分析したものや、国から提供された児童生徒の学習環境と学力の相関関係の分析内容を参考に、教育施策に生かしていく。 また、各校では、自校の課題をとらえ、日常の授業改善に取組むなど、児童生徒の学力向上に生かしていく考えである。
三廻部	45	教育長	いじめや不登校などの問題が起きる要因をどのように考えているか。	いじめや不登校などの問題行動の要因としては、様々なケースがあり一概には言えないが、子どもたちの良好な人間関係を保つ力の低下が大きな要因として考えられる。 また、家庭における生活の乱れにより、心の安定を欠いたり、学校生活に負担を感じてストレスを抱える子どもたちも多く、それが問題行動の一因となっていると捉えている。 これらの背景としては、大人社会も含めた社会環境の変化が子どもたちへの大きな影響となっていることも考えられる。

三 廻 部	46	教 育 長	いじめやいじめによる自殺、不登校の対策について伺いたい。	<p>各学校では、子どもたちへのきめ細かい関わりを重視したり、教育相談等の機会を増やして悩みの相談を行ったり、担任を中心とした組織的な対応や関係機関との連携をするなど、いじめや不登校の解消に向けた取り組みを行っている。</p> <p>いじめ問題に関しては、公明党 20 番小松議員の代表質問にお答えしたように、全国でのいじめによる自殺の連鎖を受けて、教育委員会では、「いじめ問題緊急対策会議」を開催し、学校・家庭・地域・行政が取り組むべき視点と具体策を緊急提言としてまとめ、現在、具体策の実践化を進めているところである。</p> <p>また、不登校対策については、校内の居場所づくり、休み始めの子どもたちへの丁寧な対応などの対策を進めている。</p> <p>さらに、中学生のいわゆる「中 1 ギャップ」による不登校やいじめの増加も指摘されており、その解消もめざして、今後、幼稚園・小学校・中学校の一層の連携を図っていききたいと考えている。</p> <p>併せて、今後、子どもたちの人間関係づくりやコミュニケーション能力向上のための取り組みも進めていききたいと考えている。</p>
三 廻 部	47	教 育 長	教職員アカデミー構想とはどんな構想か伺いたい。	<p>「教職員アカデミー構想」とは、本市で従来行われてきた教職員研修に関する事業を見直し、新たに体系化したものである。</p> <p>平成 18 年度に行なった「小中学生の教育に関する市民満足度・重要度調査」の結果を検証し、教員に求められる資質を、「教員としての指導力」「教職への情熱」「社会人としての資質」の 3 つと捉えた。</p> <p>これらの資質を高めるため、研修対象とねらいをより明確にし、教職員すべてが適切な時期に適切な研修を行なえるよう、体系化を図ったものである。</p>
三 廻 部	48	教 育 長	本市の教職員の資質向上について、どのような施策を行ってきたのか、また、今後の施策について伺いたい。	<p>教職員の資質向上を図るため、これまでも様々な研修を実施しており、その内容や方法を工夫改善してきた。例えば、教職経験 5 年の節目ごとに指導力向上や児童・生徒理解力向上に向けた研修を実施してきた。また、今日的な課題に対応する専門的なスキルを身につけるため、例えば、個人情報管理に関わる研修や児童・生徒や保護者に対するカウンセリング技術を学ぶ研修等を実施してきた。</p> <p>今後、「教職員アカデミー構想」に基づいて、各界の専門家による出張授業を行い、それを教員が見ることで授業改善に結び付けたり、研修相談員等が学校を訪問して個別に指導する研修を行ったり、社会人としての知識・技能等、従来あまり研修内容として取り上げられることが少なかった領域について研修したりする計画である。</p> <p>このような取組により、教師としてのやる気や教職への情熱を高め、資質の向上を図りたい。</p>
三 廻 部	49	市 長	学校施設のトイレ改修やエアコン設置について、今後どのように進めていくか。	<p>学校施設のトイレ改修については、老朽化の度合いや学校等からの要望に基づき、国庫補助を活用しながら順次改修を進めており、平成 19 年度は千代小学校及び矢作小学校のトイレ改修を実施する予定である。</p> <p>またエアコンについては、公明党 20 番小松議員並びに日本共産党 30 番原田議員の代表質問にもお答えしたが、パソコン教室や管理諸室等に順次整備を進めており、平成 17 年度には「市民が選ぶ予算の使い道」制度を活用し、小中学校の保健室に設置したところである。</p> <p>平成 19 年度は、大窪小学校と下曾我小学校のパソコン教室及び職員室、矢作小学校のパソコン教室に設置するとともに、現在未設置の中学校 10 校の管理諸室に、リース契約により設置する予定である。</p> <p>今後も学校からの要望などを基に、計画的・効率的に教育環境の整備を進めてまいりたい。</p>

三 廻 部	50	市 長	<p>校舎リニューアル事業の今後の進め方はどのように進めるのか。</p>	<p>平成 16、17 年度において白山中学校をモデル校とした中校舎のリニューアル工事を実施した。</p> <p>平成 18 年度では、学校や保護者、地域住民の代表からなる「白山中学校校舎リニューアルモデル事業評価委員会」を設置し、専門家のアドバイスをいただきながら、生徒や委員さんへのアンケート調査を行ない、現在、評価検証をしているところである。</p> <p>また、早川小学校においては、「早川小学校校舎リニューアル推進部会」を 3 月下旬に立ち上げ、白山中学校の評価結果を参考にしながら、会議を開催することになっている。</p> <p>そこで平成 19 年度は「早川小学校校舎リニューアル推進部会」の提言や専門家の意見を反映させながら、外壁や多目的教室の改修を実施する予定である。</p>
-------------	----	--------	--------------------------------------	---